

姉妹都市

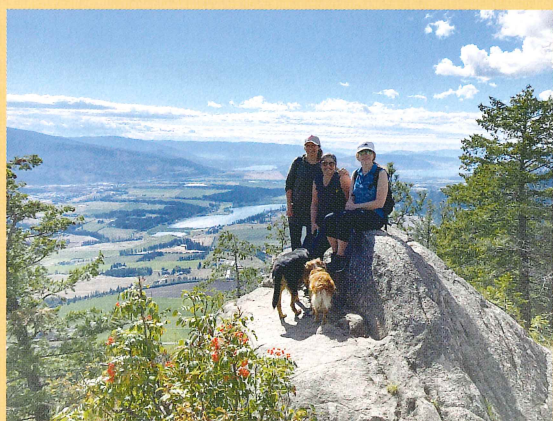
— 世界をつなぐ笑顔と勇気 —

No.28
2022.12

2022 サーモンアーム市の “いま”

サーモンアーム市の日常の様子

新型コロナウイルスの終息の見通しはまだありませんが、サーモンアーム市では、少しずつ以前のような日常を取り戻しつつあるようです。



6月のサーモンアーム市のやわらかい日差しとさわやかな気候が伝わってきます。
マスクの着用義務もなくなっているようです。

サーモンアーム市の冬景色

例年の交流事業では、冬のサーモンアーム市の様子に触れる機会がないため、今回はいつもとは違った冬のサーモンアーム市の様子をお届けします。

豪雪地帯で知られるカナダの雪景色はまさに壮大そのもの。思わずハートを描いてみたくなったようです。広大な野原の雪景色をぜひ一度見てみたいですね。



PHOTO BY STACY MORRISON

稲敷市姉妹都市交流委員会は、少しでも早く両市の交流が再開できることを願っています。

【令和5年度 稲敷市親善大使海外派遣事業について】

～貴重な海外体験のチャンスです～

令和5年（2023年）8月に、カナダ・サーモンアーム市へ、稲敷市在住の中学生・高校生を派遣します。1週間のホームステイを通して、海外の文化や家庭生活、カナダの大自然の迫力を体験します。

募集は令和5年4月頃を予定しています。きっと素晴らしい体験が待っています！

※新型コロナウイルス感染症の影響等により日程の変更、中止となる場合があります。





海外派遣？ホームステイって何だろう？サーモンアーム市ってどんなところ？そんなことから、姉妹都市に興味を持ってもらいたいという願いを込めて、児童、生徒たちへ向けた展示を実施しています。写真は、江戸崎小学校の展示の様子です。

本年度中に市内の全小中学校の12校へ、順番に展示を行っていきます。ぜひ交流の楽しそうな様子や、カナダの雄大な自然の迫力をお楽しみください。

稲敷市姉妹都市交流委員会は、姉妹都市との交流への第一歩を応援します。



オンラインによる姉妹都市交流 についての研修会



コロナ禍の影響を受け、稲敷市とサーモンアーム市の交流ができない状況が続いていますが、両市の輪をつないでいくため、新たな方法を模索していました。

そこで、令和4年10月8日（土）、オンラインによる姉妹都市交流を行った事例についてご紹介いただく機会があり、当委員会においても、今後の状況に対応した交流活動に活かせるよう研修会を開催しました。

事例の中には、両都市を中継し、生徒同士の質問や試食が行われ、時差がある都市では事前の動画を用意するなど、様々な工夫がありました。

海外の往来は戻りつつありますが、オンラインにより、今までよりも多くの皆さんが交流できるような事業も考えていきたいと思っています。

— INFORMATION —

会員募集！あなたも国際交流しませんか？

稲敷市姉妹都市交流委員会

親善大使派遣事業や親善訪問団受入れ事業など、稲敷市が実施する姉妹都市（サーモンアーム市）との幅広い活動に協力し、交流活動を展開しています。皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は稲敷市ホームページをご覧ください。

稲敷市 姉妹都市交流

検索

問合せ・申込は
『まちづくり推進課内事務局』
029-892-2000（代）まで



使節団員の健康と安全を最優先に
稲敷市姉妹都市交流委員会
会長 石井 道朗



未だに終息しない新型コロナウイルスオミクロン株。そんな中、日本では外国人の入国時審査等が緩和されました。このことは、私たちにとって明るいニュースではありますが、しかし、油断は禁物です。稲敷市からの派遣、サーモンアーム市からの受入れにしてもクリアしなければならない課題が幾つもあります。いずれにしても、使節団員の健康と安全を最優先に派遣や受入れを考えなければならないと考えています。

今後も、姉妹都市交流事業再開に向け、市当局と交流委員会が協力し合い、企画運営を進めてまいりたいと考えています。引き続き皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後に、11月初旬から2月中旬にかけて、市内各小・中学校で「姉妹都市カナダ・サーモンアーム市を知ろう！」と題し、大型ポスターの巡回展を行っています。是非ご覧ください。

親善大使海外派遣事業及び親善訪問団受入の日程について

	派遣	受入
令和5年度	2023年8月	2024年3月予定
令和6年度	なし	なし
令和7年度	2025年8月	2026年3月予定

※新型コロナウイルス感染症等の影響により日程の変更、中止となる場合があります。

編集後記

新型コロナによる緊急事態が出されてから2年9ヶ月。対面での姉妹都市交流が難しくなって、ずいぶん時間が経ちました。その中で『何が出来るだろうか』このことが大切なんだと思います。広報を通じて、市民のみなさんに姉妹都市の交流活動はしっかりと続けられていると知っていただければと思います。そして、新型コロナの心配が少しでも減っていくことを願っています。

編集：稲敷市姉妹都市交流委員会広報委員・稲敷市 まちづくり推進課

交流委員会広報委員

山本 彰治（委員長）、倉田 九豪（委員）、小貫 直美（委員）